

国語 第2学年 みの回りのものを読もう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、身の回りの掲示や案内から、目的に必要な語や文を選んで読む。文字の大きさだけで重要さを決めない。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「みの回りのものを読もう」 教材名「みの回りのものを読もう」

2 単元の目標

身近な語句の意味や役割に気付ける。案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①身近な語句の意味や役割に気付いている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

身の回りの掲示や案内から、目的に必要な語や文を選んで読む。文字の大きさだけで重要さを決めない。学習指導要領のC(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師作成の架空の催しの案内で、目的・日時・場所を探す。実在の連絡先や児童の個人情報は載せず、条件の欠けた案内と比較して必要な語を考える。おおむね満足できる状況は、案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○案内を読む目的を確かめる。必要な語や文を探す。 評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第2時（本時）：○不足している情報を比べる。読み取った内容を相手に知らせる。 評価：知①・思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（2/2）

(1) 本時の目標

案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出せる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認め、自分の最初の考えを短く書く。

○「この案内を見て行動するには、どの言葉を確認めする必要がありますか」

【めあて】身の回りの掲示や案内から、目的に必要な語や文を選んで読む。

予想される児童の反応：・何のお知らせかを先に確認めたい。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確認めたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この案内を見て行動するには、どの言葉を確認めする必要がありますか」

自分で言葉や本文の箇所を確認め、理由を添えて考えを書く。ノートを見せて説明し、聞き手は分かったところと、まだ確認めたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・何のお知らせかを先に確認めたい。

・日時や場所が分からないと行けない。

・大きな題名以外にも大切な情報がある。

指導上の留意点：教師作成の架空の催しの案内で、目的・日時・場所を探す。実在の連絡先や児童の個人情報載せず、条件の欠けた案内と比較して必要な語を考える。

想定するつまずき：題名だけを読んで行動を決める、図の印象から書かれていない内容を補う。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確認められる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思①案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出している。（発言と学習記録）

知①身近な語句の意味や役割に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)オ）（使った言葉・音読や表記の確認）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確認めた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・大きな題名以外にも大切な情報がある。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この案内を見て行動するには、どの言葉を確認めする必要がありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確認めた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

